

皆様へ

新年あけましておめでとうございます。昨年は、金沢市の取り組みにご理解とご協力をいただきありがとうございました。今年も創造都市・金沢にさらなる磨きをかけるべく、各種の取り組みを推進していきたいと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願い致します。

さて、今回は、「eAT '11 KANAZAWA (イート金沢)」についてお知らせ致します。金沢市は、多彩な伝統工芸を抱える手仕事のまちであり、また、伝統芸術や文化を育んできたまちですが、新たな芸術・文化・産業の創造、人材育成を目指して、1997年から開催しているエレクトロニックアートの祭典が“eAT KANAZAWA”です。

“eAT KANAZAWA”は、国内外のクリエイターや学生、IT関連の仕事にたずさわる人たちの相互交流の場として、金沢を舞台に開かれるエレクトロニックの表現者の祭典です。

15回目となる本年度は、2月4日、5日両日にわたって、「メイド・イン・ジャパン～金沢から発信するNIPPON」をテーマに、「フォーラム&アワード」、「セミナー」及び金沢ならではの「夜塾」を開催します。「フォーラム&アワード」では、プロのアーティスト・クリエイターを対象とした表彰式や記念講演、ライブコンサートを行い、「セミナー」では、音楽やものづくりについて各分野の第一人者が意見交換します。また、「夜塾」では、金沢市内の湯涌温泉で、夜を通して語り合う場が設けられます。これらは、参加者に新しい創造性と未来への目を開かせてくれるイベントです。

下記HPなどで参加予約を受け付けていますので、皆様、是非お越し下さい。

<http://www.eat-kanazawa.jp/>

今後も、創造都市・金沢は、文化とビジネスをつなぐために、実践的な取り組みを推進していきます。

それでは、皆様がますますご健勝にてご活躍されることを願って、日本国金沢市創造都市推進担当より。

皆様

金沢市では、ユネスコ・クラフト創造都市の登録認定を受けて、創造都市・金沢にさらなる磨きをかける取り組みを推進しています。

今回は、皆さんに、金沢市の「北陸新幹線金沢クラフト活用研究会」についてお知らせします。

北陸新幹線は、日本の首都である東京を起点として、長野、上越、富山、金沢、福井等の主要都市を經由し、新大阪に至る延長約700kmの路線であり、金沢市は、日本を代表する観光地を通る「観光のゴールデンルート」と位置付けています。

また、北陸新幹線は、日本の高速交通体系の柱として、交流人口の増加による経済効果や、まちの賑わい創出などのほか、二酸化炭素の削減などの環境面の効果も期待される一大国家プロジェクトです。

「北陸新幹線金沢クラフト活用研究会」は、金沢美術工芸大学の先生方、工芸やデザインの専門家により設置され、2014年度末に迫った、この北陸新幹線の東京・金沢間の開業を見据え、新たに導入される新幹線車両の内装に、金沢市の伝統工芸の活用を検討しているものです。

昨年、4月に初会合を開いた同研究会は、会合を重ねて、デザインコンセプトや基本構想、具体案をまとめ、先日、金沢市から営業主体であるJR西日本に提案しました。

デザイン案は、「金沢の伝統的なものづくりの美意識を現代の感性で表現する」などをテーマに、金沢の伝統工芸を象徴する色彩である加賀五彩のうち、臙脂と古代紫をイメージカラーとし、古代紫色のカーペットを敷き、座席のヘッドレストは、臙脂色を施しています。また、室内ドアの装飾には加賀友禅や金箔箔、座席の肘掛けには「漆」を配しています。

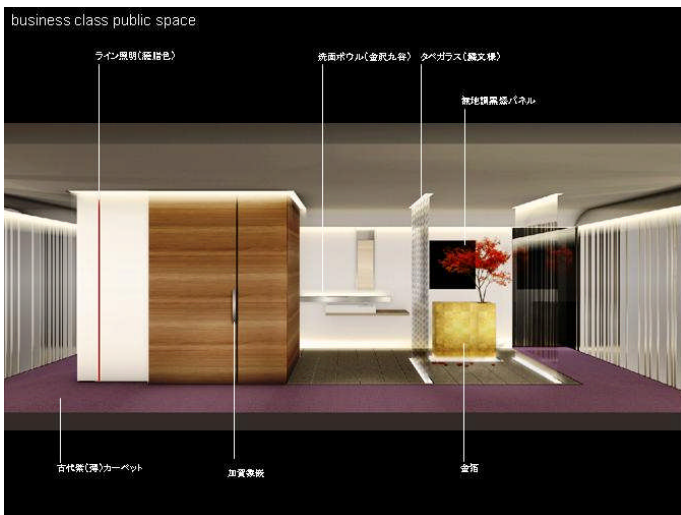
多様な伝統工芸を有するクラフト創造都市・金沢の提案が採用されるよう願っていますが、このことによって、金沢の伝統工芸の国内外への発信と活性化につながることを期待しています。

北陸新幹線金沢開業の際には、皆様、是非、ご乗車下さいませ。

今後とも、創造都市・金沢は各種の実践的な取り組みを推進し、国内外へ発信していきたいと考えております。

皆様におかれましては、今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。

それでは、皆様ますますご健勝にてご活躍されることを願って、日本国金沢市創造都市推進担当より。



皆様

金沢市は、昨年3月に策定した創造都市推進プログラムに従って、各種の取り組みを推進しているところですが、今回は、以前、皆様にお知らせしました二俣和紙再生プログラム検討委員会が、報告書を取りまとめましたのでお知らせします。

二俣和紙再生プログラム検討委員会は、本市を代表する希少伝統工芸である二俣和紙を活性化させるため、後継者の育成、用途・販路の拡大、和紙原材料の生産体制等の整備について検討することを目的とし、昨年5月に発足しました。

検討委員会は、今年度、開催した3回の会議を通じて、原材料の生産から紙漉までの一連の工程を整備し、本物の和紙づくりに取り組むため、二俣和紙再生に向けた課題と実践方策等を報告書として取りまとめました。

主要な実践方策としては、後継者の育成の面から、希少伝統工芸専門塾に二俣和紙部門を新設すること、用途・販路の拡大の面からは、以前、皆様にもお伝えしました、金沢クラフトビジネス創造機構（仮称）と和紙職人の連携による新製品の開発やメッセにおける新商品の展示・販売等を挙げました。また、和紙原材料の生産体制等の整備の面からは、楮の試験栽培の実施等を挙げました。

今後は、和紙職人や行政だけではなく、市民や事業者の協力により、二俣和紙再生に向けて、各種施策の着実な実践に努め、将来的には、楮の栽培から和紙の販売まで一貫した技術・知識の習得・活動が可能であるという和紙産地・二俣の強みを活かし、和紙づくりを学ぶなら、「二俣」いわば「和紙のワンダーランド」として、国内外にその名を馳せることが期待されます。

今後も、クラフト創造都市・金沢は創造の担い手を育てるために、各種の取り組みを推進していきたいと考えております。

それでは、皆様ますますご健勝にてご活躍されることを願って、日本国金沢市創造都市推進担当より。

(バッグ・紙工芸品など)



(刈り取り時期の楮畑)



皆様

金沢市は、ユネスコ創造都市認定後2年目を迎えて、新年度、海外とのクラブ交流を加速させるとともに、国際貢献にも力を入れていきたいと思っています。

本市は昨年の新たな事業として、ベルリン市、ボローニャ市、アントワープ市にご協力いただき、「クリエイティブ・ワルツ」と銘打った若手工芸家海外研修支援事業を実施しました。各都市を訪れた金沢美術工芸大学の学生は、創造都市の担当者や地元の作家の方々と交流を深めるとともに、レベルの高い欧州の芸術文化に直に触れることで、かけがえのない貴重な体験ができたとの所感を述べています。そして、その成果を広く発信するために、体験をレポートにまとめ、3月下旬に開催する金沢創造都市推進委員会の会議で発表をいたします。

このようにクリエイティブ・ワルツ事業に一定の成果があったことから、今年度は、派遣対象者を金沢美術工芸大学学生のほか、金沢卯辰山工芸工房や金沢工芸協会から推薦を受けた若手工芸家にも門戸を広げて実施をする予定ですので、引き続き、ネットワークメンバーの皆様方のご協力をお願いするものです。

そのほか、今年度は、創造都市として国際貢献にも取り組んでいくため、初めての試みとして、アジア工芸作家等研修支援事業の実施を予定しています。アジア諸国から染物、織物、漆芸などの工芸作家等を受け入れて、1年程度金沢の工芸技術を学ぶ研修事業で、金沢美大の教員や学生、地元工芸家を対象に母国の工芸に関する講演会やワークショップを開催するほか、作家が帰国後に、金沢の工芸の魅力をもつて母国に伝える役割を果たすことを期待しています。

他にも国際貢献としては、昨年、ユネスコ創造都市ネットワークに上海市、成都市、イチョン市、ソウル市が新たに加盟されるなど、アジアにおいて創造都市への関心が非常に高まっていることを受けて、アジア諸国の政府や自治体、大学等から本市への視察や照会が急増しています。今後とも、ユネスコ創造都市ネットワークの加盟都市として、アジアなど他都市への貢献に積極的に対応していきたいと考えています。

皆様におかれましては、今後とも創造都市・金沢の各種の取り組みにご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、皆様ますますご健勝にてご活躍されることを願って、日本国金沢市創造都市推進担当より

皆様

金沢市は、昨年3月に策定した創造都市推進プログラムに従って、各種の取り組みを推進しているところですが、今回は、その取り組みの一つである金沢市と外部研究機関との創造都市に関する共同研究事業について、報告書がまとまりましたので皆様にお知らせします。

今回、金沢市と研究機関である NPO 法人都市文化創造機構との間で取りまとめた「創造都市金沢におけるクラフトのビジネス化に関する研究報告書」は、昨年10月に金沢市で開催された「世界創造都市フォーラム 2010」のテーマにも挙げられた、文化のビジネス化の有効手段としてのメッセの役割について、今後の展開方向を探ろうとするものです。

本報告では、今後の金沢市におけるメッセの展開に向けて、3つの主な課題について取りまとめています。

一点目は、「クラフト、デザインの文化的価値の新たな活用への積極的提案」についてまとめています。これは、メッセが、金沢が有する各分野の伝統と、先端の技術、アートが融合し、21世紀の地域経済を先導する新たな革新を生み出すきっかけの役割を果たすことを提案するものです。二点目としては、情報発信の方法として、「メディアを活用した国際プロモーションの展開」を、そして三点目では、まちなか全体をメッセ会場にという視点から、「メッセとツーリズムとの連携」について取りまとめています。

この研究報告書につきましては、以下のHPに掲載しましたので、皆様、よろしければご覧になって下さい。

金沢市 HP アドレス

今後も、創造都市・金沢は各種の実践的な取り組みを推進し、世界の皆様へ発信していきたいと考えております。

皆様におかれましては、金沢市の取り組みについて今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、皆様ますますご健勝にてご活躍することを願って、日本国金沢市創造都市推進担当より

皆様

まず、初めに、先月日本で発生しました大地震について、ユネスコ本部をはじめ、皆様方から温かいお見舞いと励ましの言葉をいただいております、改めてお礼を言いたいと思います。

金沢市をはじめ、名古屋市、神戸市には、被害は発生しておりません。

今後、国を挙げて、復興に向けた取り組みを進めていきますので、引き続き皆様からのご協力とご支援をお願い致します。

金沢市では、金沢市工芸協会などとともに、この度の震災により被災された方々を支援するため、チャリティ工芸展を開催します。

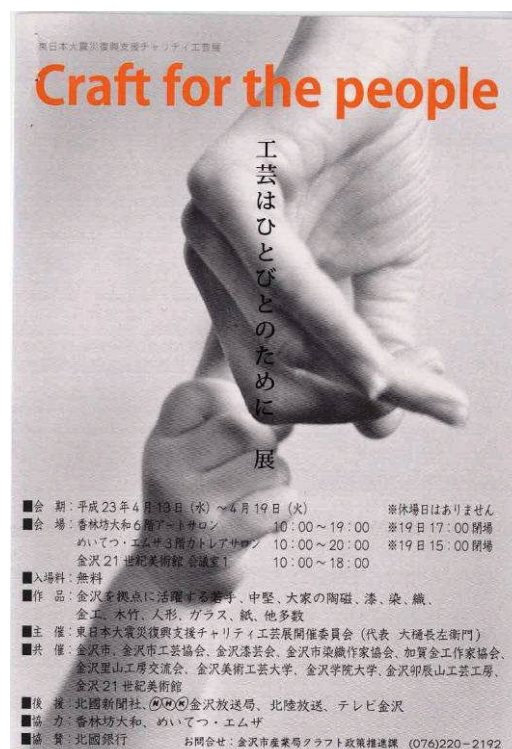
工芸展は、「Craft for the people—工芸はひとびとのために展」と銘打って、金沢を拠点に活動する陶芸、漆芸、染織、金工、ガラスなどの作家や、金沢美術工芸大学と金沢学院大学の教員、学生ら約140人が約250点を出品します。分野、団体、教育機関等の垣根をこえてはじめて開催されるもので、展覧会の益金は、義援金として被災者の皆様の生活復興のために役立てます。

工芸展は、金沢21世紀美術館など市内3会場で、平成23年4月13日(水)～19日(火)に開催します。

多くの方のご来場をお待ちしておりますので、皆様ご協力のほどよろしくお願い致します。

今後とも、クラフト創造都市・金沢は、各種の取り組みを推進し、震災の復興に貢献していきたいと考えていますので、今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。

それでは、皆様ますますご健勝にてご活躍することを願って、日本国金沢市創造都市推進担当より。



■会 期：平成23年4月13日(水)～4月19日(火) ※休場日はありません
■会 場：香林坊大和6階アールサロン 10:00～19:00 ※19日17:00閉場
 めいてつ・エムサ3階カトリックサロン 10:00～20:00 ※19日15:00閉場
 金沢21世紀美術館 3階展示1 10:00～18:00
■入場料：無料
■作 品：金沢を拠点に活躍する若手、中堅、大家の陶磁、漆、染、織、
 金工、木竹、人形、ガラス、紙、他多数
■主 催：東日本大震災復興支援チャリティ工芸展開催委員会(代表 大橋長左衛門)
■共 催：金沢市、金沢市工芸協会、金沢漆芸会、金沢市染織作家協会、加賀金工作家協会、
 金沢里山工房交流会、金沢美術工芸大学、金沢学院大学、金沢卯辰山工芸工房、
 金沢21世紀美術館
■後 援：北國新聞社、(株)金沢放送局、北陸放送、テレビ金沢
■協 力：香林坊大和、めいてつ・エムサ
■協 賛：北國銀行 お問合せ：金沢市産業局クラフト政策推進課 (076)220-2192